

## 令和元年度 第2回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和2年2月26日(水) 10時30分～12時00分  
場所 兵庫県尼崎総合庁舎 別館2階大会議室

### ■資料の確認／事務局

#### 【資料】

- 資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況
- 資料2 第1回協議会議事等について
- 資料3 エピソードによる評価について
- 資料4 来年度の取組みについて
- 参考資料1 年度第1回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録
- 参考資料2 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱
- 参考資料3 尼崎21世紀の森づくり行動計画におけるSDGsの目標一覧

### ■会長による開会の挨拶

世の中いろいろ騒がしいですが、尼崎21世紀の森がさらに素晴らしいものになるようよろしく願います。最近私は、健康のために地元高槻のまちを歩くのが趣味になっている。その時に気づいたのだが、高槻市教育委員会が身近な木や、石などを含め、生活に密着したまちかどの文化財や歴史などを「高槻まちかど遺産」に認定、111ヶ所に説明板を設置している。このため、いたるところに「高槻まちかど遺産」が存在することに気付くと共に、まちを歩きながらそれを見ていくと愛着がわく。

尼崎21世紀の森構想エリアにも以前は工場、さらに前は砂浜があった。これから新しい森づくりに向けて過去が何であったかの歴史を振り返りながら、みなさんと協力して森づくりを行っていきたい。

### ■報告事項(1)「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

#### ○資料説明(事務局)

資料1 尼崎21世紀の森構想の取組状況をもとに、以下の内容について事務局より説明。

- 1) 尼崎の森中央緑地の整備状況について
- 2) 令和元年9月以降の主なイベントなど
- 3) 緑も水辺も育む賞について
- 4) 東京五輪アスリート地域魅力発信事業について

#### ○意見交換

会長 : 東京五輪アスリート地域魅力発信事業について、皆さんが楽しく過ごせるよう臨機応変の対応をお願いします。

### ■報告事項(2) 第1回協議会議事等について

## ○資料説明（事務局）

資料2 「第1回協議会議事等について」をもとに以下の内容について事務局より説明。

- 1) 企業の福利厚生事業の中央緑地における実施状況について
- 2) 尼崎21世紀の森エリアでのSDGsに係る取組みについて
- 3) 尼崎の森中央緑地でのウォーターサーバー設置について
- 4) 尼崎21世紀の森構想の周知について

## ○意見交換

会長 : 企業の社内運動会の費用は無料か。

事務局 : 場所を囲って占有される場合、使用料がかかるため、企業と相談する。

委員 : イベントがない通常の尼崎の森中央緑地の利用の場合、どのような方が来園されているのか。

事務局 : 日常は近隣の家族連（子供含む）の利用が多い。来園は車がほとんどである。平日は朝夕に犬の散歩をされる方が多い。最近はこのような日常利用が多い。

委員 : イベントだけでなく、尼崎の森中央緑地で様々なことができることを周知し、利便性の向上にも留意いただきたい。

会長 : 尼崎の森中央緑地はマイボトルを製作するなどSDGsへの取組みが、かなりすすんでいる。今後、経団連等が企業に対してSDGsの取組の報告を求める機会が増えるかもしれない。このため尼崎21世紀の森構想エリアで活動している人、団体、企業が、SDGsの活動を実践しているということを対外的に説明できる仕組みを考えていただければとも思う。

## ■養蜂の取組みについて

会長 : 尼崎鉄工団地協同組合が行う養蜂への取組みなどを紹介いただきたい。

委員 : 尼崎鉄工団地の概要や養蜂の経緯、現状等を説明。養蜂が糞害などにより団地での継続が難しいことなどを伝え、皆様のご意見、ご協力を頂きたい旨を報告。

## ○意見交換

委員 : 養蜂は雑誌Aaでも何度か取材させていただき、画期的なことだと感じている。ぜひ尼崎21世紀の森で継続できればと考えている。蜂の危険性もあるかもしれないが、ボランティアを募集するなど、古民家、第3工区などで継続できないかと考えている。

会長 : 第3工区を整備する際、土壌改良をかねてレンゲ畑などを整備しても面白

いのではないかと。

委員 : 巣箱に子供が触れるなどすれば、蜂に刺される危険はあるため隔離は必要であると考えている。

養蜂自体に手間はあまりかからないが、女王蜂が元気か、産卵しているなど1週間から10日毎に定期的な点検等が必要である。あと、5月連休あけから毎月1回程度、遠心分離機を使った採蜜が必要になる。尼崎21世紀の森で場所を貸していただければ、当面尼崎鉄工団地で所用経費の負担を考えている。その場所での活動が認められれば、養蜂を移譲したいと考えている。

委員 : 尼崎21世紀の森を推進するのに養蜂は大事な取り組みである。子供たちと蜜をとれば楽しいし、ふるさと納税返礼、商品化などへの広がりも考えられる。

森の会議など市民、企業などが集う場で話し合い、皆様のご協力を得るなどの流れを検討したい。期間限定の試行に取り組むなど、蜂の安全性などに対する誤解を解きながら検討していきたい。

会長 : 一度、須磨離宮公園の指定管理者である(公財)神戸市公園緑化協会に養蜂のやり方などをヒアリングに行くといいのではないかと。

また、地域固有種の野菜である武庫一寸ソラマメ、尼イモなど地域の特産の農産物を復元することと合わせて養蜂を考えてもいいのではないかと。

### ■報告事項(3) エピソードによる評価について

#### ○資料説明(事務局)

資料3 「エピソードによる評価について」をもとに事務局より資料説明。

#### ○意見交換

委員 : 「エピソードによる評価」という名前を現在の内容に沿うように、例えば「官能アンケート」など楽しいタイトルに変えてはどうか。

また、このアンケートを負担が少なく、誰でも実施できるようにマニュアル化などを行い、『簡単にアンケートが出来て、効果的な結果がわかる』ということをPRしつつ、ホームページに公開することを目指したいと思う。

事務局 : 「エピソードによる評価」の名前(タイトル)については、楽しいものに変えることも検討する。

今は、質的な評価に重点をおいて、イベントの選択を行いたいと考えている。たくさん人が集まる大きなイベントなどで回答率が0.8%の場合、その回答の有効性に疑問があり、改善にはつながりにくいと考えている。例えば環境学習イベントのなかのプログラムの1つとしてアンケートを取るなどが適していると考えている。

委員 : アンケートの数や回答率については特に問題ないと考えている。それより

もアンケートのやり方について、例えばやり方がわからない人はアンケート用紙だけを机に置いておくケースが出てくる。アンケート対象者にきちんと声掛けし、趣旨を説明しなければ、アンケートの良さが伝わらないと思うため、マニュアル化が必要と感じている。

委員 : 主催者と参加者の評価の比較しかないのか。イベントでエピソードによる評価を行いたい場合、どうすればよろしいでしょうか。

事務局 : イベントで開催、実施が決まった段階で通知いただければアンケート用紙をお配りするなどの対応を行う。

会長 : 主催者の期待値をもう少し位置づけるべきである、例えば参加者に主催者側の考えを事前に示すなどの工夫が必要である。

また、アンケートの回答率が低い、回答率を向上させる取組を考え、統計的に耐える数値を集める必要がある。公開は、一度成果をまとめて以降にしたほうが良いのではないか。

## ■協議事項（1）協議会の来年度の取組みについて

### ○資料説明（事務局）

資料4 「来年度の取組みについて」をもとに事務局より資料説明。

### ○意見交換

委員 : SDGs について外務省の SDGs 担当者から本質を聞いた。「異なる社会との繋がりから生まれる変革」が求められる。現状のやり方を継続すれば 2030 年には社会が存続しえないので、採択されたとのこと。これを踏まえ森構想に落とし込む具体案を検討する必要がある。これまでのやり方、価値観を変えるものが必要であると考え。

委員 : 運河での活動から、環境が改善されてきていると感じる。特に水質浄化施設のある北堀運河周辺は、東堀、西堀と比較してきれいになっている。

運河のライトアップなどを行い、美しくみせれば、ゴミを捨てにくくなるのではないか。

来年度チャンネルフライデーを4回（4月、5月、9月、10月）

会長 : 最近はやりのキーワードは、当事者意識と社会との関係性である。SDGs の取組にも当事者性が求められる。蜜蜂の件も同様である。

アメリカの公園ではベジタブルガーデンがたくさんあり、フードバンク（食糧貯蓄）も兼ねていることか、アメリカのコミュニティーガーデンとして紹介されている。尼崎21世紀の森を作っていく過程で草原、荒地等でうまく活用しながら、プロセスの中で実験的に生産活動などを行ってはどうか。これらの取組は「タクティカル」という言葉で紹介されており、パートタイムで試行的に取組を行い、うまくいけば継続し、失敗すればやめるなど臨機応変

に行うものである。とりあえず、第3工区などで野菜を植えてみて、生産がうまくいかないようであれば、森づくりに戻すなど、一時的な活用等を検討してもよいのではないか。これからも新しい取組に挑戦していただきたい。

■閉会